

4 建設業人材育成における中核的役割

中空知管内建設業の人材育成における中核的な役割



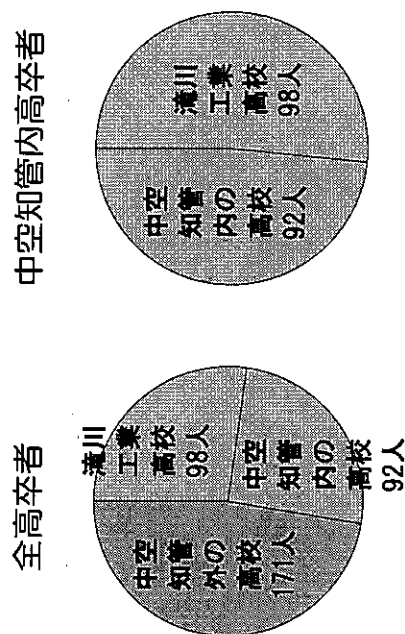
- 全高卒者の約2割が滝川工業高校卒
- 技術系高卒者の約4人に1人が滝川工業高校卒
- 技術系の中空知管内高卒者のうち5割以上が滝川工業高校卒

表1—中空知建設企業高卒者の出身高校

単位:人

	技術系	その他	計
滝川工業高校	98	15	113
中空知管内の高校	92	126	218
中空知管外の高校	171	72	243
計	361	213	574

図1—技術系高卒者内訳



資料:中空知建設業連絡協議会「中空知管内建設企業の高卒者雇用状況調べ(平成20年6月)」から

5 早急な人材育成の必要性

早急な人材育成の必要性が高い

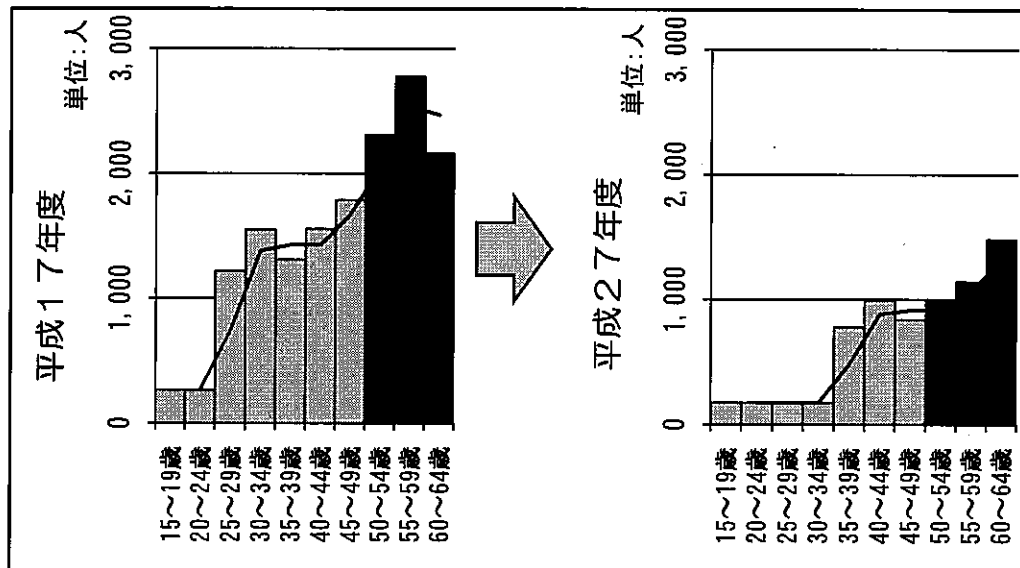


建設業就業者のうち、50歳以上の者が約4割を占め、今後10年間に於ける就業者数の激減が見込まれる。

表1—建設業就業者の年齢構成

	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合 計
空知	2,306人 12.3%	2,775人 14.8%	2,161人 11.5%	7,242人 38.6%
岩見沢市	545人 12.9%	626人 14.8%	402人 9.5%	1,573人 37.1%
滝川市	313人 11.7%	387人 14.5%	296人 11.1%	996人 37.3%

図1—空知管内建設業就業者年齢分布



滝川市調べ(総務省「平成12年度国勢調査」から推計)

6 地域企業からの声

地域企業の二エース

⇒「即戦力となる人材・安定的な人材供給・高い職業意識を持った人材」



- ・基礎知識が身に付いているというだけでも、戦力として全く違う。(滝川市：建設業)
- ・この地域は中小企業が多い。企業内教育する体力も高くないことから、工業高校で基礎をしっかりと学んだ人材を採用し、3年で一人前になってもらわなければ困る。(滝川市：建設業)
- ・うちの会社の仕事は、土木科の基礎を要する。従って、工業高校でも土木科卒の人材にこだわっている。(滝川市：製造業)
- ・工業高校がなくなったら、人材の採用先に困る。職安に経験者の求人を出したとしても人材のレベルも不安定であり、年齢もバラバラ。希望者がいるかどうか不明で計画的な雇用ができなくなってしまう。(砂川市：建設業)
- ・定年の65歳延長への対応ということもあるが、やはり会社の年齢構成を踏まえ計画的に新卒者を雇用していくことは重要であり、工業高校に人材を求める必要性が高い。(滝川市：製造業)
- ・この地域に専門職がいなくなるということは、技術の伝承者がいなくなることである。将来を見据えた人材育成機関のあり方をきちんと考えてほしい。(砂川市：製造業)
- ・工業高校卒業者が、就職する気構えが違うのは確か。キャリア教育・職業意識がしっかりしている。(滝川市：建設業)
- ・企業としては、給料をいただいて責任をもって働くというキャリア教育も重要な要素であり、そういったことから、工業高校での教育を受けた人材は信頼性が高い。(滝川市：製造業)
- ・技術や基礎が身につけているということのほか、「中卒時にすでに将来的なビジョンをもって工業高校に進学するという決断をした」ということと自体が工業高校から採用する理由である。(砂川市：建設業)
- ・若い子は1年くらいですぐに辞めていく。しかし、自分の経験で言えば工業高校の子の方がしっかりと勤めてくれる。(砂川市：製造業)

7 学科の時代ニーズへの対応

時代のニーズに即した学科の転換等が必要



社会ニーズ（防災・環境・都市計画等）と生徒ニーズ（興味・関心・進路志向等）の合致

北海道教育推進計画

産業教育の充実 「産業構造の変化や地域産業の実態に対応した学科転換の実施」

新たな高校教育に関する指針

工業教育の充実 「高度情報通信や環境保全など、時代の進展などに対応した学科転換や科目の設定等により、活性化を図ります。」

道央地区における土木科設置校

- 土木科 滝川工業高等学校・札幌工業高等学校・苫小牧工業高等学校・室蘭工業高等学校
- 環境土木科 小樽工業高等学校（建設科環境土木コース）

道外高校・工業高等専門学校・大学における名称

- | | |
|------------|------------|
| 道外高校 | 工業高等専門学校 |
| ○土木システム科 | ○環境都市工学科 |
| ○土木環境システム科 | 大学 |
| ○環境土木科 | ○社会環境工学科 |
| ○都市工学科 | ○社会基盤工学科 |
| ○都市システム科 | ○建設システム工学科 |
| | ○環境社会工学科 |

図1—道央地域における土木科所在地

